

科目区分	専門教育科目	授業科目名	保育実習Ⅲ				科目コード	23Y506	担当者	荒木 正平			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	2年次	開講学期	通年	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士選択必修			
授業形態	実習	履修条件	入学時から1年次後期末までの通算GPAが1.20未満の者は、原則として、本科目を履修することができない。								教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分		
実務の経験を有する教員担当科目			実務の経験内容及び科目との関連								科目に含めることが必要な事項			

授業の主題	保育実習Ⅰを踏まえ、家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深める。その上で、児童福祉施設（保育所以外）における家庭支援のための知識・技術などを具体的に学び、保育士としての自己課題を明確にする。				課題等への対応（フィードバックの方法等）	実習後に全体指導（実習報告会）や個別の事後指導をおこなう。			
授業の方法	保育所以外の児童福祉施設及び障害者施設での学外実習をおこなう。				アクティブ・ラーニングの実施方法				

授業計画						事前・事後学修	
<p>実習期間：2年次 9月 10日間</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育実習Ⅰを踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能についての理解を深める 保育実習Ⅰを踏まえ、施設における子ども・利用者支援の実際についての理解を深める <ul style="list-style-type: none"> 受容・共感的態度の実践 子ども・利用者ごとに異なるニーズの把握と理解 個別の指導計画・支援計画の活用実践の理解 家族への支援と対応 他機関、地域との連携の実態の理解 施設における保育士業務（職業倫理含む）の理解と、自己課題の明確化 						<p>実習前に、実習先の子ども・利用者について理解を深めておく。実習後に自己の課題を確認する。</p>	
						事前・事後学修時間	90分

教科書 [書名／著者名／出版社]	教育・保育実習の手引き、これからの時代の保育者養成・実習ガイド	受講生へのメッセージ	施設で生活する子どもや利用者の心情及び実態の把握に努め、個に応じた支援技術の重要性を理解してください。併せて、施設の社会的役割についても理解を深めてください。
参考書 [書名／著者名／出版社]	なし		

評価基準																
学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点 学修成果の 比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度					
			定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S:100~90%)	レベル4 (A:89~80%)	レベル3 (B:79~70%)	レベル2 (C:69~60%)	レベル1 (F:59%以下)
観 点	心 志 向	① 誠実性	10					10	欠勤・遅刻・早退せずに実習に取り組む。提出物は余裕をもって担当保育者に提出する。	保育者として積極的に学ぶ態度。	実習施設による評価	欠勤・遅刻・早退が全くない。提出物は余裕をもって提出し指導を受けることができた。	欠勤・遅刻・早退が全くない。提出物は期限内に提出した。	欠勤・遅刻・早退が1日以上あった。もしくは提出物を期限内に提出できないことが1回程度あった。	欠勤・遅刻・早退が2日以上あった。もしくは提出物を期限内に提出しないことが複数回あった。	欠勤・遅刻・早退が3日以上あった。もしくは提出物を期限内に提出しないことが複数回あった。
		② 倫理観	10					10	職業上の倫理に基づいた、社会人としてふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接する。	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動。	実習施設による評価	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接することができた。	概ね職業上の倫理に基づく社会人としてふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接することができた。	職業上の倫理に基づいた社会人にふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接することができなかった。	職業上の倫理に基づく社会人にふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接することがあまりできなかった。	職業上の倫理に基づく社会人にふさわしい言動で職員や子ども・利用者等と接することがほとんどできなかった。
	知 識 ・ 技 能	③ 知識	10					10	保育実習Ⅰを踏まえ、施設を利用する子ども・利用者支援に必要な知識を深く理解し、実践に活用できる。	施設保育に関する基礎的・専門的知識	実習施設による評価	子ども・利用者の個々の状況やニーズを十分に理解し、常に適切な支援を実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズを理解し、ほぼ適切な支援を実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズをある程度理解し、適切な支援を実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズの理解が十分とはいえなかったが、支援を実践することはできた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズがほとんど理解できておらず、適切な実践もできなかった。
		④ 技能	10					10	保育実習Ⅰを踏まえ、施設を利用する子ども・利用者支援に必要な技能を深く理解し、実践に活用できる。	施設保育に関する基礎的・専門的知識	実習施設による評価	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得し、常に実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得し、実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズをある程度実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得したが、実践への活用があまりできなかった。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能の習得ができず、実践もできなかった。
	創 造	⑤ 数量的スキル														
		⑥ 問題解決力														
	表 現	⑦ 言語的スキル	40			40				子ども・利用者の姿や保育・支援実践をいねいに観察し、エピソードを交えた記録が書ける。	書く力	実習報告書、日誌	誤字・脱字無く、子ども・利用者の姿や保育・支援の内容をエピソードを交えて書くことができた。	誤字・脱字少なく、子ども・利用者の姿や保育・支援の内容をエピソードを交えて書くことができた。	誤字・脱字は無いが、子ども・利用者の姿や保育・支援実践の記録に欠ける。	誤字・脱字が数か所あり、子ども・利用者の姿や保育・支援実践の記録に関する観察の記述が不十分である。
		⑧ コミュニケーションスキル	10					10	保育者・子ども・利用者等に対し、状況に応じた臨機応変な関わりや支援を実践できる。	意思伝達力、対人調和力	実習施設による評価	自ら進んでの挨拶やかかわりを心掛け、場や相手に応じた行動を十分に実践することができた。	自ら進んでの挨拶やかかわりを心掛け、場や相手に応じた行動を実践することができた。	自ら進んでの挨拶やかかわりが十分でなく、場や相手に応じた行動をあまり実践することができなかった。	自ら進んでの挨拶やかかわりがほとんど見られず、場や相手に応じた行動を実践することができなかった。	
	実 践	⑨ 主体性	10					10	自ら学ぶ姿勢のなかで、保育者らの助言・指導を踏まえて積極的に子ども・利用者支援に参加できる。	職員同士の連携のなかで、積極的に子ども・利用者支援に関わろうとする態度。	実習施設による評価	保育者らの助言・指導を参考にしながら、子ども・利用者支援に積極的に関与し行動することができた。	保育者らの助言・指導を受けながら、子ども・利用者支援に参加した。	保育者らの助言・指導を受けながら、子ども・利用者支援に積極的に参加しようとした。	保育者らの助言・指導を受けたが、子ども・利用者支援への参加に消極的であった。	保育者らが助言・指導したが、子ども・利用者支援にほとんど参加しようとしなかった。
		⑩ 協働性														
合計			100					60								